

私たちが目指す手話言語法とろう教育の充実

第31回ろう教育を考える全国討論集会 in ぐんま

2019年8月3日(土)~4日(日) 群馬県高崎市 高崎市文化会館、高崎市中央公民館

発行:第31回ろう教育を考える全国討論集会 in ぐんま 実行委員会 〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町 13-12 群馬県社会福祉総合センター内
(一社) 群馬県聴覚障害者連盟気付 FAX 027-255-6870 TEL 027-255-6404 E-mail th31-roukyouiku-jimu@deaf-gunma.com

No.3

2019年 8月



令和元年8月3日(土)
高崎市文化会館にて第31回ろう教育を考える全国討論集会
開会式・基調報告が行われました。



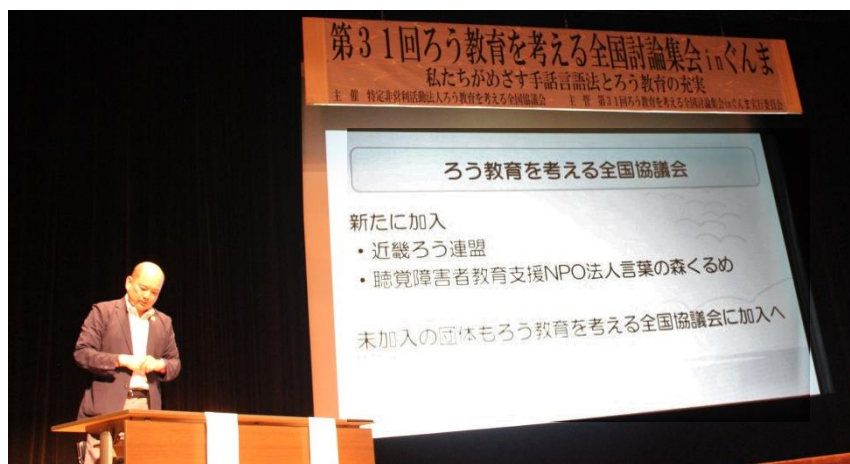
歓迎のあいさつ
実行委員長 早川健一



主催者のあいさつ
ろう教育を考える全国協議会
理事長 山根昭治



祝辞
群馬県知事 山本一大
(代理: 群馬県健康福祉部
部長 武藤幸夫 様)



基調報告

ろう教育を考える全国協議会
事務局長 石橋大吾



ろうあ運動は
教育から始まるもの
石橋大吾



全体会 パネルディスカッション



テーマ：『手話言語条例と地域のつながり
～手話言語の獲得環境を整えるために～』



コーディネーターの石橋氏を中心に、大西孝志氏、金澤貴之氏、小原透氏、早川健一氏、佐藤千里氏をパネラーに迎え、パネルディスカッションを行いました。



参加者の手(声)を聞いてみました。



パネルディスカッションの様子を見て感じたことは、色々な考え方があって、自分の考え方が正しい訳ではなく、色々な人々の考え方があって、参考にするとところもあって凄く勉強になりました。 北海道 山上



我が子がろう児とわかった時のショックはいかばかりかと。その立場を考えた時に我が子が普通に生まれたことで、気づけなかったこと、今、初めて、そのことに気づけ、これからもろう者がいて当たり前前の環境が築けていけるように私もその一人として活動していきたいと思いました。 東京 増田 多鶴代